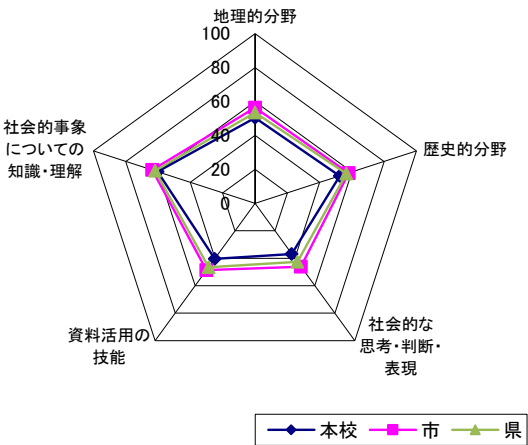


宇都宮市立 宝木 中学校 第2学年【社会】分類・区分別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	地理的分野	50.4	56.4	53.5
	歴史的分野	52.5	58.0	56.6
	社会的な思考・判断・表現	36.8	46.1	42.5
	資料活用 の 技能	40.4	48.6	46.5
	社会的事象についての知識・理解	60.3	63.6	61.9



★指導の工夫と改善

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
地理的分野	●地理的分野の平均正答率が、市平均、県平均より下回っている。 ●社会的な思考・判断・表現は市平均、県平均より下回っている。 ●短答式・記述式の正答率は市・県平均よりも下回っている。 ○世界のさまざまな地域で学習した、宗教の分布やその特徴についての設問では、県や市と比べ、本校の正答率は上回っており、基礎的基本的事項は身に付いている。 ○世界の姿で学習した、適切な地図の選択や、示された地点の方位についての設問では、市平均より2.2、県平均より4.6上回っている。	・前回の授業で学習した内容の復習を毎時間、授業の最初に取り入れ、基礎的基本的な知識・理解、用語の定着を図る。 ・地図、グラフ、資料など、資料活用 の 技能は、読み取り方を丁寧に指導し、プリントなどを活用し、学習訓練を図っていく。 ・これから学ぶ日本の諸地域について、地図帳、資料集を使い、確認する習慣を身に付けさせる。
歴史的分野	●歴史的分野の平均正答率が、市平均、県平均より下回っている。 ●中世における、短答式で答える設問に対する平均正答率が市平均、県平均よりも下回っている。 ○古代の日本における、国内の政治や周辺のアジア諸国と日本との関係に関する設問では、市平均、県平均より本校の正答率は上回っており、基礎的基本的な事象の知識・理解は身についていると思われる。 ○中世の日本における、アジア諸国と日本とのつながりや交流の様子に関する設問では、市平均、県平均より本校の正答率は上回っており、基礎的基本的な事象の知識・理解は身についていると思われる。	・前回の授業で学習した内容の復習を毎時間、授業の最初に取り入れ、基礎的基本的な知識・理解、用語の定着を図る。 ・歴史の流れを掴むため、授業の際には極力資料集の年表を活用し、また年表を確認する習慣を身に付けさせる。 ・用語の定着を図るため、授業の最初に5問テストを実施。用語の漢字の定着も図る。 ・これから学ぶ近代史について、グラフなどの資料を使い、資料を活用した資料の読み取りを行うことを強化する。